

# 第5・6学年 音楽科学習指導案

指導者 T1 田村 弘 子  
T2 細川 誠

## 1. 題材名 曲の気分を味わって演奏しよう

## 2. 題材の目標

曲のもつ気分や歌詞の気持ちなどを感じ取り、イメージをふくらませながら演奏の仕方を工夫することができるようにする。

## 3. 題材構成について

### (1) 児童観

5年生は14名、6年生は9名である。少人数学級の学習には、一人一人の活動の場や時間を確保しやすいよさがある反面、多人数による音の厚みや、多様なパートを組み合わせる歌ったり演奏したりする感動を体験できにくいという課題がある。そこで今年度は、2学年合同の学習を位置づけた年間計画を立て、いくつかの題材で2学年23名での音楽を行っている。

これまで、「世界の音楽に親しもう」「いろいろなひびきを味わおう」「重なり合う音の美しさを味わおう」の合同学習で、合奏や合唱、グループの活動、聴き合う活動等を体験してきた。いろいろなパートが集まることで支え合いながら演奏したり、グループで工夫したことを聴き合って感想を持ったり、他学年の感想を聞くことで刺激を受けたりすることができた。

三省まつり（学習発表会）の発表を目標に、5・6年生で「ふるさと道」の合奏を学習したときは、各パートの役割を考えながら、良いひびきになるように意欲的に取り組んだ。また、アトリオンのピクニックコンサートに出かけたり、学校で馬頭琴コンサートを聴いたり、お話しコンサートの中でクラリネットやピアノ、歌の生の演奏に触れたりといろいろな音楽を鑑賞する経験をしてきている。その時には、曲想を豊かにとらえたり、楽器の音色を味わったりして、感想を自分なりの言葉で表現することができた。

反面、声で表現したり、演奏を一人で披露したりすることには消極的になることが多い。また、いろいろな工夫を出し合って、一つの曲をもっと良い演奏にしようということまで高まっていないのが実態である。

アンケートによって音楽の学習について児童の意識を調査した結果は次のとおりである。

	大好き	好き	好きじゃない	きらい	大好き・好きの割合
音楽の授業	4人 (男2/女2)	12人 (男5/女7)	6人 (男5/女1)	1人 (男1/女0)	70% (男54/女90)
歌うこと	5 (2/3)	12 (6/6)	5 (4/1)	1 (1/0)	74% (62/90)
演奏すること	10 (6/4)	7 (4/3)	5 (2/3)	1 (1/0)	74% (77/100)
踊ったり 体を動かしたりすること	1 (1/0)	4 (0/4)	11 (6/5)	7 (6/1)	22% (8/40)
鑑賞すること	14 (6/8)	7 (5/2)	1 (1/0)	1 (1/0)	91% (85/100)
音符記号の勉強	3 (2/1)	5 (1/4)	8 (4/4)	7 (6/1)	35% (23/50)

全体的に音楽の授業が好きな児童が多く、中でも「歌うこと」「演奏すること」「鑑賞すること」は「とくい」「楽しい」「すっきりする」「いろいろな曲をきける・おちつく」という理由で関心をもって学習している。しかし男子の割合は低く、「好きじゃない・きらい」の理由として、「声が出ない」「とくいではない」「はずかしい」などを挙げている。この理由は「踊ったり体を動かしたりすること」「音譜記号の勉強」の関心の低い項目についても同じである。

「鑑賞すること」に多くの児童が関心をもって取り組んでいることから、これからも、いろいろな機会に音楽に触れることができるようにし、良い音楽にあこがれをもつことによって、表現の活動にも近づいていけるようにしたいと思う。少し苦労しても「できる」「わかる」という学びや「楽しい」「すっきりする」という満足感を積み重ねることによって、意欲をもって音楽活動ができるようになってほしいと願っている。

### (2) 題材観

この題材は、「A表現 (2) 曲想や音楽を特徴づけている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。」に関わる学習である。

これまで低学年の頃から、様子を思い浮かべて歌ったり、情景を想像して音楽を聴いたり演奏したりする学習を重ねてきている。さらに高学年では、歌詞の内容や曲の構成を理解して表現を工夫したり、拍の流れやフレーズ、音の重なりや和声の響きを感じ取って聴いたり、表現したりすることが求められている。

本校の5・6年生においても、前題材では「ふるさと」を教材として歌詞が描き出す情景や心情をとらえて歌う活動をしている。その際、あこがれをもって自分たちの合唱に取り組めるように、いろいろな合唱曲を聴いて、声のひびきを感じ取る学習もした。また、楽器を組み合わせたひびきを味わいながら、中川賛歌「ふるさと道」の合奏を作り上げる学習をし、合奏への意欲が高まっている。

合唱や合奏に関心が高まっているこの時期、単に声や音を合わせる活動から発展させ、曲のもつ気分を感じ取って聴いたり、それを生かして演奏したり、歌詞に着目して心情に共感しながら歌ったりという学習には、興味をもって取り組めるものと思われる。そして、そのような学習を通して、音楽を想像豊かにとらえる感性や、表情豊かな表現を工夫していく能力を育てたいと考え、本題材を設定した。

### (3) 指導観

本校の音楽科の研究主題は、『思いをもって表現し、楽しく音楽活動する子どもを育てる指導の工夫』である。この題材では思いや意図をもって表現したり鑑賞したりするために、「旋律の感じやひびき」「歌詞の内容や心情」をよりどころに曲の気分を感じ取り、表現を工夫する学習を進めたい。

指導にあたって、次はどんな合奏をしようかと楽しみにしている児童に、どこかで聞いた親しみのある旋律である「木星」の合奏曲を提案することで、興味をもってこの題材に入れるようにしたい。まず、合奏の範奏CDを聴いて曲の気分を感じ取り、グループで楽器を選んでそのグループらしい合奏をすることから始める。その際、個別指導を大切にし、演奏技能で不安をもつ児童への配慮を心がけたい。

そして、グループでの合奏を発表したあと、オーケストラによる「木星」の原曲の鑑賞をしたい。自分たちが演奏している部分を含んでいることことから、鑑賞教材も一段と興味をもって聴くことができると思われる。曲全体の雰囲気を感じ取ったり、前後の部分との比較によって中間部の雰囲気の違いに気づいたり、厚くダイナミックなオーケストラのひびきを味わったりして、曲に浸らせたい。実態にあるように、「鑑賞すること」には関心が高く、鑑賞と表現を関連付けた学習をすることによって、「演奏すること」に苦手意識のある児童の意欲も喚起できるものと考えられる。

その後、再び合奏にもどり、鑑賞から感じ取ったことを生かして、イメージに近づけるための工夫をするが、そのためには全員で合奏した方がよいことに気づかせ、一斉学習を進めていくことにする。楽器を替えたり、盛り上がりをつくったりして、思いのある表現をめざし、多人数で音を合わせる感動を味わってほしいと考える。

歌唱では、「広い空の下で」の歌詞に着目して、印象に残った部分や、そこをどんな気持ちで歌いたいか、一番気持ちをこめたいところはどの部分か、などについて話し合い、歌詞の心情を感じ取るようにさせたい。また、旋律の動きとも合わせて、強弱や曲の盛り上がりを表現したり、曲にあった速さを決めたりして曲全体をまとめていきたいと考える。

TTで指導にあたり、グループ活動やパート練習、個別指導、努力を要する児童への支援、評価を生かした指導など、計画的・効果的に行いたい。

## 4. 教材について

### (1) 「木星」(ホルスト 作曲 長谷部匡俊 編曲)

鑑賞教材「木星」の中間部に現れる、民謡風で印象的な旋律をもとに編曲された、表現を楽しむための器楽教材である。旋律に聞き覚えのある児童が多いと思われ、鑑賞で感じ取った曲想を生かして楽器を加えたり、盛り上がりをつくったり等、よりよい合奏をしようという活動に、興味をもって取り組めるものと思われる。

### (2) 「木星」(鑑賞教材 ホルスト 作曲)

イギリスの作曲家、ホルスト(1874~1934)がつくった管弦楽組曲「惑星」の中の一曲である。この組曲は全部で7曲からなり、「木星」はその第4曲である。

オーケストラのひびきが大変豊かで、次々と変化していく曲の気分を感じ取って、自由にイメージを膨らませながら聴くことができる教材である。中間部に現れる印象的な第4主題は親しみやすく、表現の活動と結びつけて効果的に聴きたい。

### (3) 「広い空の下で」(高木あきこ 作詞 黒沢吉徳 作曲)

歌詞から情景を思い浮かべるといっても、歌詞の内容から心情を感じ取ってそれに共感しながら歌うことができる教材である。草原を吹き渡る風、広がる青空などの情景がさわやかさや未来への希望をイメージさせる。語りかけるように始まる旋律は、斉唱から合唱へと変わり、気分も高まっていきながら最後の部分で曲の山を迎えている。曲の前半の斉唱は、変声期を迎えた児童にも無理のない音域になっている。後半は二部合唱になっているので、高い声が出しにくい児童は低声部の旋律を歌うことができる。そうした点で、みんなで歌う喜びを実感できるものと思われる。

評価の観点 内容のまとめ	音楽への関心・ 意欲・態度	音楽的な感受や 表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
歌 唱				
器 楽				
創 作				
鑑 賞				

題材の評価規準			
音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
曲の気分や歌詞の気持ちに 関心をもって聴いたり表現 したりしようとしている。	曲の気分や歌詞の気持ちな どを感じ取り、合奏や合唱 の仕方を工夫している。	曲の気分や歌詞の気持ちな どを生かして合奏や合唱を している。	楽曲全体の構成に気を付け て聴くとともに、主な旋律 からのイメージを膨らませ ながら聴いている。

次 時	ねらい 学習内容 ・主な学習活動	学習形態	教 材	具体的評価規準（評価方法）				努力を要する子供への手だて
				音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力	
第 一 次	器楽合奏の曲のもつ気分を感じ取ったり、オーケストラによる演奏からイメージをふくらませたりして、合奏の仕方を工夫する。  楽器を選んで組み合わせ、工夫して合奏する。 ・「木星」(合奏)の指導用CDを聴き、感想を発表し合い、主旋律を階名唱したり、リコーダーで演奏したりする。  ・グループごとに楽器と担当するパートを決めて、自分のパートを練習する。  ・グループで音を合わせて、互いの響きや音色、音量のバランスなどを考えながら表現を工夫する。  ・カードに感想を書きながらグループごとの発表を聴き、感想を発表し合う。	個人・一斉  グループ 個人 パート グループ  グループ 一斉	木星(合奏)	曲の気分を發表したり、リコーダーで演奏したりしようとしている。(活動・発言の様子)	主旋律からの曲の気分を感じ取っている。(活動の様子・鑑賞カード)	分担されたパートを正しい音やリズムで演奏している。(活動の様子・演奏)	他のグループの工夫のよさを感じ取りながら聴いている。(鑑賞カード・鑑賞の様子)	・楽譜を指さして追ったり、いっしょに楽譜に階名を書いたりする。 ・練習する時間を保障し、個別指導する。  ・友達の工夫を参考に自分の演奏の工夫のめあてをつかませるようにする。 ・聴くポイントを示し、話を引き出しながらカードに書けるように支援する。
	オーケストラの演奏を、曲の構成や曲の気分を感じ取りながら聴く。 ・曲全体の気分について感じたことや想像したことをカードに記録し、発表し合う。 ・3部構成になっていることを感じ取る。	個人・一斉	木星(オーケストラ)	曲の構成をとらえ、中間部からのイメージをふくらませながら聴いたり、発表したりしようとしている。(活動・発言の様子)			曲の構成をとらえ、中間部からのイメージを膨らませながら聴いている。(鑑賞カード・発言の様子)	・どんな感じのする曲か、楽器の数や音量などについて問いかけながらカードに書けるように支援する。
	鑑賞を生かした表現の工夫をする。 ・全グループいっしょに合奏する。 ・中間部の主題について、他の部分とくらべてのイメージを發表したり、特徴を考えたりする。 ・楽器を替えたり、曲の山を意識して合奏する。 ・低音を加えたり、テヌートを意識したりして合奏する。	グループ 一斉	木星(合奏)		オーケストラ演奏の強弱や厚みのあるひびきなどを感じ取り、曲の山や加えたい楽器などを考え、合奏の仕方を工夫している。(発言・演奏の様子 カード)			・自分たちの合奏で盛り上げたいところはどこか、他にも付け加えたい楽器はないかなどを問いかける。
第 二 次	歌詞のイメージや旋律の動きから、曲の気分を生かした合唱の仕方を工夫する。  旋律の動きや歌詞の表すイメージを感じ取りながら聴いたり、歌ったりする。 ・範唱を聴いて曲全体の感じを發表し合う。 ・範唱に合わせて主旋律を歌う。	個人・一斉	広い空の下で	旋律の動きや歌詞からのイメージを感じとって發表したり、主旋律を歌ったりしようとしている。(活動・発言の様子)			旋律の盛り上がりや歌詞からのイメージをとらえながら聴いている。(鑑賞・発言の様子)	・歌いにくい部分を取り出して音を確認め、歌えるようにする。
	曲のイメージに合う歌い方を工夫して歌う。  ・歌詞を朗読し、内容について話し合う。 ・旋律の動きから曲全体の構成や曲の山を見つける。 ・歌詞や旋律の動きを生かした歌い方を工夫して歌う。	一斉	広い空の下で		歌詞のイメージや旋律の動き、曲の山を生かした歌い方を工夫している。(発言・演奏の様子 カード)			・縦書きの歌詞を用意し、様子をとらえやすくしたり、
	曲のイメージを生かしながら二部合唱をする。  ・低音部に気をつけて範唱CDを聴いたり、各パートに分かれて歌ったりする。 ・合唱することによって、さらに曲のイメージを生かした歌い方ができるように工夫して歌う。	一斉 グループ 一斉	広い空の下で	曲のイメージを生かし意欲的に二部合唱をしようとしている。(活動の様子・演奏)		各パートに別れて音程やリズムを正しく歌っている。(活動の様子・演奏)		・音程の取りにくい部分をくりかえして練習する。二部合唱の部分で曲が盛り上がっていくことを楽譜で示す。

6 本時の学習（本時 6 / 10）

(1) ねらい

オーケストラの演奏による「木星」からのイメージを生かして、楽器を替えたり、曲の盛り上がりをつくったりして、合奏を工夫することができる。

(2) 学習活動の展開と評価

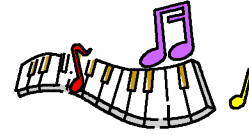
主な学習活動	学習形態	教師のかかわり		評価規準 【方法】
		T 1	T 2	
1. 全グループいっしょに「木星」を合奏する。 2. 本時のめあてを確認する	一斉	・ 同じパートを確認し、聴き合って演奏するよう励ます。	・ 掲示用の楽譜にネームプレートを貼る。	
オーケストラ演奏の「木星」のイメージを生かして演奏の仕方を工夫しよう。				
3. どんないちを工夫をするかカードに書きながら中間部を聴く。	一斉 個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇宙のイメージ絵</li> <li>・ [こんな工夫]をして[こんな感じ]を出せるようにしたいというように、具体的な言葉にできるように助言する。</li> </ul>		
4. イメージを生かすためにどんないちを工夫するか話し合う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工夫のわけを話す中で、自分が感じ取った曲のイメージを語らせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カードに書かれていることを把握し発言を促す。</li> </ul>	
<p>強 弱 : 盛り上がりをつくってダイナミックにしたい。</p> <p>他の楽器 : 大太鼓のような打楽器を入れて力強い感じにしたい。</p> <p>低音が入ると落ち着くなあ。</p> <p>オルガンの音を変えてみる。</p> <p>演奏の仕方 : 一つ一つの音をたっぷり演奏して堂々とした演奏にしたい。</p>				
5. 「今日の工夫」を取り入れて合奏する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出された工夫から実際にやってみながら「今日の工夫」を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工夫のキーワードを板書する。(今日の工夫を強調)</li> </ul>	<p>オーケストラの演奏のイメージを生かして、楽器を替えたり曲の盛り上がりを意識したりして合奏の工夫をしている。</p> <p>【学習カード】 【発言・演奏の様子】</p>
6. 今日の合奏について感想を发表或したり、学習のふり返りをしたりする。	一斉 個別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合奏全体のひびきを聴きながら演奏するように助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技能が不十分な児童に寄り添って、工夫を意識できるよう声かけする。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カードを準備し、めあてについての自己評価ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早く記入した児童に、もっとやれそうな工夫もメモするように促す。</li> </ul>	



= 曲の気分を味わって演奏しよう =

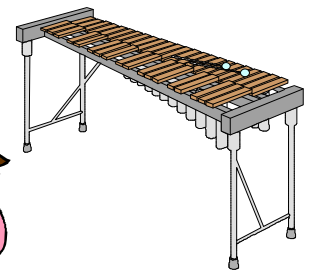
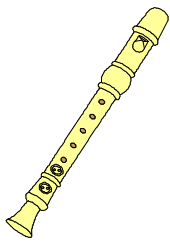


## グループ合奏「木星」の工夫を聴こう



他のグループの演奏を聴いて、曲の気分が表せていたか、感想を書きましょう。  
楽器の音色 パートの音の強さ 音のバランス などについて聴こう!!

	めあて	感想
班	たての線をあわせる。 はく力があって、みんなの音をひびかせる。 音量のバランスをよく。	
班	なめらかに、やわらかくピアノとリコーダーに合わせる。 鉄きんはみんなの音を消さないように。	
班	けんばんは、聞こえやすいように。 木きんは、はっきり。 オルガンは、暗い感じを出す。 リコーダーは、なめらかに	



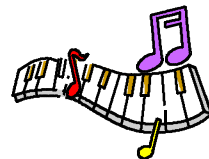


= 曲の気分を味わって演奏しよう =



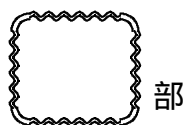
## オーケストラ演奏「木星」を聴こう

曲全体のイメージはどんな感じでしたか!!



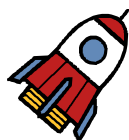
《 感 想 》

「木星」を大きく分けると、いくつに、分けられると感じましたか。



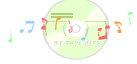
部

グループで合奏している部分は、他の部分にくらべて どんなイメージですか。





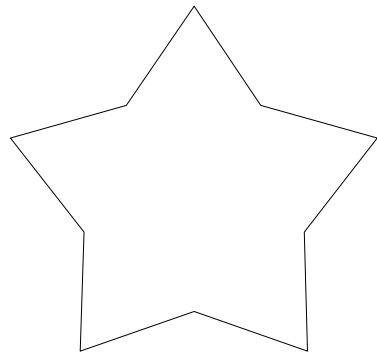
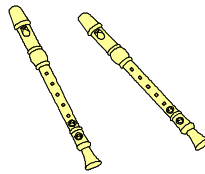
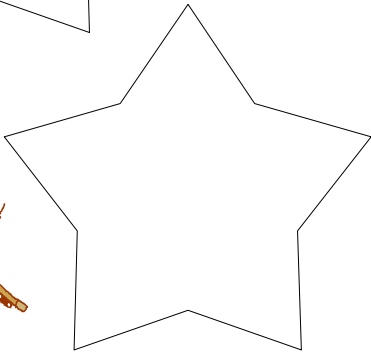
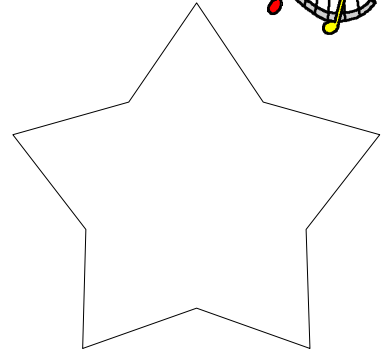
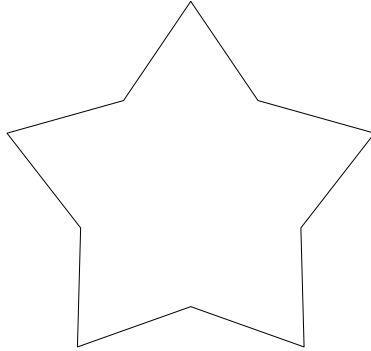
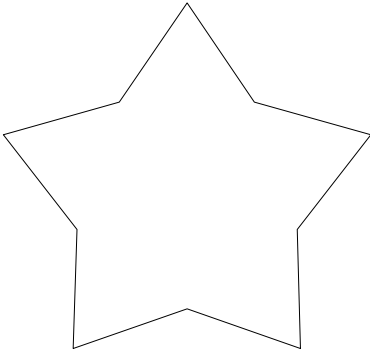
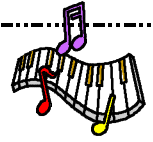
= 曲の気分を味わって演奏しよう =



工夫して合奏しよう



オーケストラ演奏の「木星」のイメージを生かして、  
私たちの合奏では、どんな工夫をしようか書こう。  
こんなふうに演奏して、こんな感じにしたい。



今日の工夫を取り入れて、合奏できましたか。ふり返りをしよう。

月 日	がんばり	工夫を考えましたか。演奏の感じはどうでしたか。
/		<hr/> <hr/>
/		<hr/> <hr/>

